

ハンズオンコース 1

株式会社モリタ協賛

今さら聞けない、マイクロスコープのためのミラーテクニック

淵上 了介¹, 磯崎 裕騎²

にしきた歯科ふちがみ¹, いそざき歯科²

手術用顕微鏡（マイクロスコープ）が歯科に応用されて20年が経過しようとしている。国別通算販売台数も世界一を記録した。しかしながら日本の歯科医療にドラスティックな変化が出た印象は多くない。まだ一般的とは言えないマイクロスコープ治療を促進するために JAMD は尽力しているが、現実問題として販売済みのマイクロスコープのうちどれだけの台数が効果的に使われているのかは疑問である。日常診療の一部にしか使用していない例も数多く耳にする。そもそもマイクロスコープの導入には経済的ハードルに加えて技術的ハードルがいくつか存在する。そのうちの最大のハードルがデンタルミラーを適切に使用する必要性が裸眼に比べて圧倒的に高いことがある。これらの技術的ハードルが普及を妨げている一因であることは明白である。

裸眼での診療と同じようにマイクロスコープを傾けることによって、覗き込んだ視線を得ることも一部では可能であるが、二つの限界が存在する。一つは前方からの視線に限られること。二つ目は視線を切り替える際にマイクロスコープと術者のポジション変化が大きく必要であり、そのためにロスタイムが大きくなると同時に、作業を中断することで形成などではマージンの連続性が失われギャップができたり角度が異なったりすることに繋がる。このような理由も含めて効果的なデンタルミラーの使用方法を身につけることはマイクロスコープの使用に際して術者の必要スキルとされる。

マイクロスコープの基本的特徴は拡大であり、治療器具ではない。従って視野、視線をコントロールすることはマイクロスコープの機能ではなく術者のスキルに委ねられる。視野、視線をコントロールするようなデンタルミラー操作のスキルを身につけるとマイクロスコープは容易に操作可能となり、その能力を引き出すことができる。

ミラーテクニックと呼ばれるデンタルミラーの効果的な使用方法については今から50年以上遡る時代に Dr Daryl Beach が提唱したシステムティックビューのことを指す。このシステムティックビューをマイクロスコープで効果的に使用できるようにしたプログラムに従って、マイクロスコープ下でのいわゆるミラーテクニックと、ワーキングビューでの形成までを経験して頂くことを目的としてハンズオンセミナーを開催する。

淵上了介（午前担当）

1999年 朝日大学歯学部 卒業
1999年 神戸市立中央市民病院歯科口腔外科 研修医
2001年 公立八鹿病院 歯科口腔外科勤務
2003年 一般開業医 勤務
2012年 にしきた歯科ふちがみ開設

日本顕微鏡歯科学会認定医
PloS インストラクター
臨床歯周病学会
大阪インプラント研究会
歯科臨床研鑽会
神戸 GP 倶楽部

磯崎裕騎（午後担当）

1987年 九州歯科大学を卒業
1994年 大阪市にて『新大阪愛歯科イソザキ診療所』を開設
2000年 高松市にて『いそざき歯科』を開設、現在に至る。

日本顕微鏡歯科学会認定医
日本歯内治療学会
G E P E C 会員
PloS 副会長
pd プロモーションG 理事